

第15回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：平成29年11月7日（金） 10:00-11:30

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、市川委員、小野田委員、倉本委員、藤井委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、佐伯審議官、行松参事官、山口参事官、佐藤参事官

(3) 関係省庁

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課 谷課長

宇宙開発利用課宇宙利用推進室 庄崎室長

4. 議事要旨

(1) ISEF2に関する現在の準備状況について

文部科学省から資料1-1、1-2に基づき説明が行われた。説明の後、次のような議論が行われた。

○ISEF2のサイドイベントであるY-ISEF等について各国反響についての質問があり、予定人数以上の応募が見込まれる旨の説明があった。

○Y-ISEFについて、世界各国の若手を対象とすると国内の若手の参加人数が小さくなってしまわないか、との質問があり、半数以上は国内からの参加を見込んでいる旨の説明があった。

(2) 国際宇宙探査に関する各国の動向について

事務局から参考資料1に基づき、文部科学省から資料2に基づき説明が行われた。説明の後、次のような議論が行われた。

○日本の現在の技術水準に関する質問があり、小型月着陸実証機（SLIM）で目指すピンポイント着陸等は世界をリードする水準である旨の説明があった。

○日本として何をやるかをしっかり決めることが重要、国際探査にどのように関わるかの検討が必要、といった意見があった。

(3) 宇宙科学・探査に係る工程表の改訂について

事務局から説明が行われた。

○長期的な視野に立ち、民間との連携も必要。

○不確定要素が多いため、柔軟に対応すべき。

○トップダウン型の国際宇宙探査は、ボトムアップ型の宇宙科学探査の意義・目的を尊重して進めるべき。

といった意見があった。本日の議論を踏まえ、工程表の改訂案を宇宙産業・科学技術基盤部会に報告することとなった。

(4) その他

事務局から、今後の予定等について連絡があった。

以上